

第53回海外日系人大会 大会宣言

私たち海外各地および在日の日系人代表・有志は、平成24(2012)年10月30日～11月1日の3日間にわたり、東京で開催された第53回海外日系人大会で、「共に歩もう日本再生の道一問われる海外日系社会の課題」を総合テーマとし、以下の三つの分科会に分かれて討議しました。

第1 日本文化と日系社会

第2 在日日系人

第3 日系ユース

分科会および全体会議の結果、次の7項目を決議したことを、大会の名で宣言します。

決議

1. 日本文化の一層の普及と日本語教育の推進に努めます

海外に住む私たちは、その国で長い間、日本文化、日本語を次の世代に伝える『継承』に力を入れてきました。こうした努力が実り、最近若い世代を中心に日本文化、日本語に興味を持つ人が激増していることは、喜ばしい限りです。日本語教育についての国際協力機構や国際交流基金の支援は、これからも続けるよう希望します。

日本文化、日本語をより広く普及するため、政府の強力な情報発信策を求めます。グローバル化の現状を踏まえて、民間企業には優秀な日系青年を経営中枢に登用するよう求めます。

日本文化を正しく継承していくためには、各国日系社会が交流を深めて、それぞれの過去の努力や現状を参考にすることが大切です。その意味でも、年に一度海外日系社会の代表が集い、各国の実情を話し合う海外日系人大会の果たす役割は大きいと考えます。

2. 日系人の重国籍を認めるよう日本政府に求めます

私たちは、海外在住者およびそのこどもの重国籍を認めるよう、これまでたびたび日本政府に求めてきました。現在日本の法律では重国籍は認められていませんが、これを認めることは、潜在的国籍を持つ海外在住の日本人を増やすことになり、日本国として国際交流に日系人を有効に活用することにつながります。私たちは移住国を愛し、日本を愛しています。“Two Spirits, One Heart”なのです。私たちのこどもを含めて重国籍を認めるよう日本政府に求めます。

3. 一世の『日本里帰り事業』に感謝します

移住後一度も日本に帰国したことのない一世20人を、来年春、桜の花が咲くころ日本に招く『里帰り事業』を海外日系人協会が実施するのは、高齢一世の励みになり福祉事業としても大いに意義あることです。

第2次世界大戦前の移住者を日本に里帰りさせる海外日系人訪日団事業は、外務省の補助金によって2005年まで37回にわたり761人が一時帰国しましたが、その後事業が廃止されたため、第45回海外日系人大会の要望書で事業の復活・継続を訴えました。この度8年ぶりに実現しますが、このために資金を提供された竹内政司氏のご厚意に感謝します。

4. 日本で活躍している在日日系人へ、続けてご支援を

日本に生活している「在日日系人」は1985年ごろから増加し、すでに4分の1世紀を超えました。その多くの在日日系人は日本に腰を落ち着け、日本社会を構成する一員となる努力を続けています。昨年の中日本大震災の被災地支援に、日系人がいち早く駆けつけたのもそのあらわれです。一方、海外の日系人も資金を拠出して被災地支援に協力しました。

しかし日系人が日本で暮らすには、言葉のハンディや必要な情報が入りにくいこと、また日本経済の停滞で就労が困難になるなど、解決すべき課題があります。なかでも子ども、青年の教育は、早急に解決しなければならない切実な問題です。とくに公立学校へ入るうえで不利な条件がなくなるよう、日本政府、地方自治体、地域の日本人社会に切望します。また日系人の母語や自国文化などの教育にも、理解と協力を得られるよう望みます。

5. 日系ユースは身近な日本文化を共有し、居住国と日本の交流促進に努力します

多くの日系ユース(若者)は子どものころからアニメや漫画、J ポップなど日本の「ポップカルチャー」に慣れ親しんできました。これは1世紀から半世紀前に、移住者一世が持ち込んだ日本文化とは全く異なるものですが、これが新たな日本語学習や日本文化を学ぶ動機となり、留学・研修のための来日につながっていると考えます。こうした新しい日本文化は、日系以外の人々の間でもブームとなっています。日系人はこれを誇りに思うと同時に、こうした動きを活かしていきたいと思えます。

このような環境のもとで育った日系ユースは、日本人と日系人の違いは何かを考えました。改めて共感するところや全く違う感覚を覚えることもあります。日本で学んだ知識、経験が、日系社会だけでなく居住国の発展、日本との交流促進に役立つよう努力します。

6. 海外移住資料館の充実した運営に期待します

横浜に設立された JICA 横浜海外移住資料館が今年10周年を迎えたことをお祝いします。この資料館は、海外移住者の歴史と日系社会のおかれた現状についての情報を、広く日本国民に提供している日本最大の博物館です。展示テーマの「われら新世界に参加す」は、移住者ばかりでなく、日本人のこれからの海外への発展をも示唆している言葉でもあります。

海外各国にもこのような資料館はありますが、横浜の海外移住資料館はこれらの資料館をまとめる要(かなめ)の存在であり、引き続き充実した運営を期待します。

7. 2020年東京オリンピック・パラリンピックの招致を応援します

元気な日本再生と発展を願って、私たちは東京オリンピック・パラリンピック開催の実現を応援します。